

日本化薬グループの CSRレポート

2014

ダイジェスト

世界的すきま発想。

 日本化薬

編集方針

本レポートでは、日本化薬グループのCSRに対する考え方や、3カ年中期事業計画 **Challenge 100A!** と連動させた中期CSRアクションプラン(2013～2015年度)のうち、2013年度のCSR活動に関する情報をダイジェストとして報告します。グループ経営の重要性が高まったことや、グローバル化の進展に伴い、グループ会社や海外拠点の情報など、より広い範囲のCSR活動を紹介しています。

また、ウェブサイト「CSR情報」では、環境に関する詳細なデータや、ダイジェスト版に記載できなかった記事など、より多くの情報を開示するよう努めています。

報告活動対象期間は2013年4月1日から2014年3月31日までの12カ月間です。

目次

編集方針	02
トップメッセージ	03

特集

クリーン エコ テクノロジープロジェクトの取り組み

環境規制を先取りする廃水処理技術確立と技術者育成	04
--------------------------	----

中期CSRアクションプラン	06
---------------	----

基盤となるCSR活動

CSR経営の考え方	08
コーポレート・ガバナンス	09
日本化薬グループ会社のCSRコミットメント	10

経済的責任を果たすCSR活動

豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品	12
日本化薬グループの事業	14

社会的責任を果たすCSR活動

お客様への取り組み / お取引先への取り組み / 社会への取り組み	16
従業員への取り組み	18

環境責任を果たすCSR活動

環境安全衛生品質マネジメント	20
エネルギー・マテリアル・バランス	22

グループ概要	23
--------	----

報告対象組織

日本化薬および国内・海外のグループ会社の取り組みを含みます。ただし、環境面は日本化薬のみです。

ウェブサイトも ご覧ください

本レポートの内容および各種環境データなどの詳細情報はウェブサイト上に掲載しています。また、最新の関連ニュースも随時更新しています。

CSR情報へのアクセス方法

日本化薬のウェブサイトへアクセス



トップページの「CSR情報」をクリック



<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/>

表紙写真について

タイトル

朝の食餌に川を渡るアメリカン・バイソン

撮影者

Nippon Kayaku America, Inc. 宮田明

撮影場所

イエローストーン国立公園
(米国ワイオミング州)

撮影者コメント

米国唯一の有史前からの野生のバイソン生息地です。早朝の川を悠々と渡る姿は、まさに威風堂々でした。



トップメッセージ

中期事業計画の成長シナリオ達成に向け注力しながら、
KAYAKU spirit の実現を目指した企業活動を行うことが、
日本化薬グループのCSR経営です。



日本化薬グループは、2016年に創立100周年を迎えます。現在、この創立100周年を目指した3カ年中期事業計画 **Challenge 100A!** (2013～2015年度)が進行しております。本事業計画の成長シナリオとして、①開発中の新製品を早期に上市・拡大すること、②既存事業の用途を拡大し、新規顧客を獲得すること、③ビジネスをグローバルに拡大すること、の3点を定め、全グループ一体となってこれらシナリオの達成に向け注力しておりますが、私たちの事業の根幹となるのは、CSR経営であると認識しております。

当社グループは、**KAYAKU spirit** 「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を私たちのあるべき姿=企業ビジョンと位置づけ、これをグループ全員で共有し、一致団結して目標に向かうことを目指しております。この企業ビジョンは50年以上前に制定された社是を元に、私たち個人・組織の中に息づく考え方であり、諸先輩から受け継いだ貴重な資産です。**KAYAKU spirit** の実現を目指した企業活動を行うことで、すべてのステークホルダーの皆さまの信頼に応えるCSR経営を実現

してまいります。特に近年、化学企業における事故が増えています。事業全般にわたり、安全操業・コンプライアンスの遵守・環境への配慮を徹底的に重視し、高い倫理観を持って経営を行ってまいります。

当社グループは現在9カ国において多様な事業を営んでおり、私たちの社会的責任も全世界に拡大しているものと認識しております。課題は山積しておりますが、グループ一体となってCSRを果たすための取り組みを一層進めてまいります。今回の「CSRレポート2014」においては、グローバルな排水への取り組み、グループ会社のCSRコミットメント、環境面における全グループ会社一体となった取り組み方針、などを掲載いたしました。ダイジェスト版としての本レポートと詳細版として別途公開いたしますウェブサイトを合わせてご覧いただき、当社グループのCSR活動へのご理解とステークホルダーの皆さまの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

萬代晃

福山工場で稼働中の
超微細気泡散気管

環境規制を先取りする廃水処理技術確立と技術者育成

年々厳しくなる環境規制や社会的要請を踏まえ、将来への不安を先取りし、環境にやさしい安定・安全な化学工場を運営していくために、日本化薬グループの廃水処理技術の向上と技術者育成を目指して、2012年10月12日にプロジェクトとして発足しました。

本プロジェクトは、将来への夢と新たな事業展開に対する期待の願いを込めて、クリーン エコ テクノロジープロジェクト(CETプロジェクト)と名付け、各事業場から担当者を選任して現在遂行中です。

プロジェクトの背景にあるもの

私たちを取り巻く環境は、日を追う毎に厳しくなりつつあり、特に海外での事業継続や新規事業進出には、すでに高いハードルが存在する状況にあります。

具体的に、

- ① 廃水排出規制の強化（国内外とも）
- ② 環境負荷の高い工場の立地制限（中国では特定区域にしか化学工場を建設できない等）
- ③ インドおよびASEAN諸国では、従来行われてきた「大量に水を使い大量に排水する化学工場」を建てることはほとんどできないこと

④ 国内の廃水・廃棄物処理費用は、上昇傾向にあり、今後も上昇の予想にあること

⑤ 日本化薬グループでは、近年、廃水処理技術者の育成と技術継承が十分できていなかったこと

等々を考えたとき、手遅れにならないうちに、全社で廃水処理技術の開発・向上に取り組む仕組みを作るべきと判断しました。

また、他社に先駆けて新たな処理技術を開発できれば、工場立地の上で優位に立つだけでなく、事業にも反映させることができると考えています。

廃水処理技術確立のゴールイメージ

CETプロジェクトでは、廃水処理技術確立のイメージを次のように考えています。

- 工場排水をできるだけ少なくする。やむを得ず工場排水を出す場合はその中で泳いでいる魚を鑑賞できるくらいきれいな水にするという技術を確認する。
- 廃水ゼロエミッションに向けた取り組みを推進し、水事

情の悪い厳しい環境の地域でも工場建設を可能にする。また、厳しい環境規制の中でも工場が安定稼働できるようにする。

- 他メーカーに先駆けて優れた処理技術の開発を行い、この技術が本業の事業展開に活かせる。

取り組み方針

1. 廃水処理に関する先端技術開発と実用化
2. 高度脱色技術の確立
3. 現行問題点解決に向け組織・体制の見直しによる検討スピードアップ
4. 技術者のレベルアップによる工場の安定操業

現在進行中のテーマ（主な処理方法）

日本化薬では、全国の事業場において大学と共同研究を行っています。また、他企業（水処理業、装置製造業等）との共同研究開発を進めているテーマもあり、協力先は多方面にわたります。

具体的事例として、21ページに国内では「鹿島工場におけるVOC削減の取り組み」、海外のグループ会社では

「無錫先進化薬化工有限公司におけるCOD負荷量削減の取り組み」を掲載しています。

福山工場

オゾンマイクロバブルによる酸化処理

有色廃水の脱色処理を目的として、試験設備による検証を今年度から開始します。



厚狭工場

高COD高塩濃度廃水の微生物処理

嫌気性処理に高酸化処理技術を組み合わせた処理方法を検討中です。これにより、従来、焼却処分しかできな



かった廃水の微生物処理技術を作り上げたいと考えています。

その他の取り組み(教育、技術レベルアップ)

当社が保有する技術を集約し、かつ、現状の問題点、環境規制値を網羅したマニュアルを作成し、知識の共有化に取り組んでいます。

福山工場

高崎工場

超微細気泡散気管の導入

従来型の活性汚泥槽に超微細気泡散気管を導入して、廃水処理能力のアップとコストダウンを達成しています。現在2工場がこのシステムを運用しています。



東京工場

高速高機能沈殿分離技術

ある廃水処理メーカーの処理技術を応用した有色廃水の脱色技術について検討しています。現在、コストの問題から実用化には至っていません。



【用語解説】

COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。

有色廃水：色素製造時等に発生する高濃度に着色した廃水。着色はきわめて濃度が低い場合でも視覚に感じられるため、汚濁感が強い。

嫌気性処理：酸素が少ない嫌気状態を保ち、その条件で活動できる嫌気性微生物に汚濁物質を分解させ、主にメタン、

二酸化炭素(CO₂)などに分解する廃水処理方法。

超微細気泡散気管：好気性状態で生物処理する際の空気吹き込みを、超微細気泡散気管で行うと、酸素移動効率が高いため、送風量を大幅に低減することができ、省エネになる。

オゾンマイクロバブル処理：低濃度で効率的に酸化分解を行うために、オゾンを超微細気泡にして廃水に吹き込み、酸化分解を行う処理方法。

中期CSRアクションプラン

分類	No.	Challenge 100A ! 中期CSRアクションプラン	2013年度アクションプランに対する成果
基盤	①	従業員のCSRとコンプライアンスに対する意識を向上させる	コンプライアンス研修:グループ会社含め50回、CSR研修:13回実施 コンプライアンスアンケート実施とフィードバック
	②	有事発生時においても事業継続性を確保する	海外危機管理マニュアル制定 BCP訓練の実施 インフラの構築を実施
社会的責任	③	化学物質に関する規制を遵守する	化学品法令基礎教育資料を整備し教育を実施 GHSの入門資料を整備し教育を実施
	④	がんとがん関連分野における研究・開発・製品情報提供により社会に貢献し続ける	血管塞栓用マイクロスフィア:2製材上市 抗がん薬内包高分子ミセル:国際共同試験が進行中 取扱が5品目増加したことに伴い、研修を増やしサポート体制を維持強化
	⑤	従業員の火薬類取り扱いに関するスキル・知識の習熟を徹底する	受講対象者36名に対し5回の講習を実施
	⑥	農薬安全使用のための現地指導を継続実施する	販売員一人あたり平均471回/年、販売窓口を訪問
	⑦	サプライヤーと連携したCSR調達を推進する	購買理念・購買基本方針・CSR調達ガイドラインの準備
	⑧	重大事故災害による環境影響や労働災害を未然に防止する	重大事故災害:0件、休業災害:2件、無傷害事故:1件、不休業災害:3件 医薬MR業務上および通勤途上自動車事故率:11.5%
	⑨	顧客苦情・品質工程異常を低減する	重大顧客クレーム:2件、重大品質工程異常:1件
	⑩	地域社会とのコミュニケーションを行う	あすなるの家2013年利用者:132家族(稼働率64%) ピンクリボン活動:7事業場で実施、乳がんinfoナビのリニューアル 工場祭:5事業場(来場者約8,000名)、地域懇談会:4事業場、 清掃活動:6事業場、公開講座:4事業場で実施
	⑪	ステークホルダーに対して適時適切な情報発信を行う	日本語版ウェブサイトのリニューアル 中国子会社へのERPシステム導入支援、グローバル経理会議開催 グループ会計方針規程策定
	⑫	多様な人材を活用・育成する	障がい者の法定雇用率2.0%達成、女性管理職の割合:4.2%へ増加 定年到達者の再雇用希望者雇用率:ほぼ100% 中国人ナショナルスタッフの育成研修開始、語学海外短期留学制度開始 海外赴任前教育プログラム強化
	⑬	従業員の安全と健康に配慮し、ワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境を提供する	メンタルヘルス研修:3カ年計画通り実施、健康診断:受診率100% 有給休暇取得率:前年度54.7%⇒59.0%に上昇
	⑭	人権とプライバシーを守る	内部通報相談:10件適切に対応 パワハラ防止を主題に全従業員対象コンプライアンス教育実施
環境責任	⑮	グリーン調達比率の向上を図る	間接材のグリーン購入比率:8%(前年度より2%の向上) 原材料のグリーン購入比率:20%
	⑯	環境へ配慮し、中期環境目標を達成する	化学物質排出量の削減:データは本冊子(P22)、ウェブサイトの開示
	⑰	廃水処理技術を向上させ、環境規制に対応する	廃水処理の新規技術:数点検討中、技術1件につき、特許出願検討中
	⑱	より一層のエネルギー低消費型企業を目指す	省エネルギー原単位:前年比4.0%削減
経済的責任	⑲	持続可能な企業グループとして安定的な収益を確保する	グループ会社への中長期重点課題制度の導入 グループ会社環境安全推進会議の初開催 在庫:目標をやや上回る、プロジェクト化して削減に注力 安価購買:目標通り達成
	⑳	環境・省エネルギーに貢献する製品を上市する	熱伝導接着シート:採用に目処 遮熱フィルム:サンプルワークを欧州車メーカーに開始
	㉑	経済負担を軽減する高品質な医薬品を提供する	日本化薬初のバイオシミラー「フィルグラスチム」上市 ジェネリック抗がん薬を2製剤上市
	㉒	独自技術を応用した安価自動車用安全デバイスをグローバルに拡大し、人命保護に貢献する	マレーシア拠点の設立 メキシコ拠点への生産設備の増強を実施
	㉓	ものづくり技術の継承により生産工場を維持継続する	発表会および優秀技術表彰による技術情報共有化 生産技術専門教育は、若手中心に実施
	㉔	持続的に研究テーマを創生・遂行する	次年度から開始するコーポレート研究制度に向け準備

ウェブサイトに ISO26000の社会的責任の中核主題及び課題との対照表を掲載します。

日本化薬グループでは、2013年4月より、2016年の創立100周年を目指した新たな3カ年中期事業計画 **Challenge 100A!** (Challenge toward our 100th anniversary)を開始しました。これに伴い、**Challenge 100A!** 期間中に取り組む中期CSRアクションプランを設定しました。本中期CSRアクションプランを全役員・従業員に徹底し、CSR経営への意識を高めるとともに、全員一体となった取り組みを進めてまいります。

評価	2014年度 アクションプラン
○	グループ会社を含めたCSR・コンプライアンス研修
○	自然災害以外のリスクに対応したBCPマニュアルの整備と訓練
○	ITシステムの被災リスク低減と迅速な復旧環境の確保(2014年度完了)
○	化学物質規制に関する社内教育プログラムの充実 各国基準に適合したSDS*によるお客様への情報提供
◎	血管内治療分野における低侵襲治療の提供、抗がん薬内包高分子ミセルの開発推進
◎	医薬品情報センターのさらなる充実による安全管理、品質向上
○	火薬安全維持推進チームによる階層別教育プログラムの実践
◎	農家へ農薬安全・適正使用の説明会実施
○	サプライヤーと連携してCSR調達の運用を開始
△	重大事故災害、休業災害、無傷害事故:0件、不休業災害度数率:5件以下 医薬MR業務上および通勤途上自動車事故率:4%以下
×	重大顧客クレーム:0件、重大品質工程異常:0件、なぜなぜ分析の職場展開による再発防止の強化
○	「あすなるの家」運営を通じ、難病とたたかう子どもとその家族をサポート
◎	ピンクリボン活動・工場祭・地域との懇談会・地域清掃活動・公開講座の継続実施
○	グローバルサイト化に向けたウェブサイトの充実 投資家とのコミュニケーションの充実、100周年に向けた社内報の企画充実
○	決算開示の早期化の推進、IFRS(国際財務報告基準)への対応準備
◎	身体・知的障がい者の継続的採用、女性の育児休職後の復帰・子育て支援による女性管理職の増加 高齢者の能力活用により技術継承を図る取り組み
○	外国人の登用と人事交流促進、国際化教育展開、若手社員の海外派遣、海外赴任時の サポート教育の充実。海外スタッフの教育・研修の体系的実施。海外駐在員生活支援の拡充
○	メンタルヘルス研修:3カ年計画受講率100%、健康診断:受診率100%
○	次世代育成支援プログラムの周知徹底と利用率向上
○	通報・相談窓口の周知と適切な対応
○	間接材購買システムの推進を継続
○	化学物質排出量の削減:2020年度までの中期環境目標(ウェブサイトで詳細報告)達成に向けた取り組み
○	規制強化を先取りした処理技術の開発、低コストの処理技術の確立
◎	各事業場の省エネマスタープランに従った省エネ活動の推進
○	グループ会社中長期重点課題制度の浸透とこれに基づく評価制度の実施
△	在庫量の適正化、遊休不動産の計画的売却
△	高性能熱伝導接着シート・光学制御フィルム新製品の上市 品質保証体制の向上による顧客満足度UP
○	バイオシミラーの早期上市とジェネリック抗がん薬の遅滞ない上市
○	マレーシア拠点の生産準備完了 中国・メキシコ拠点における生産設備増強
○	ものづくりに関連した全社発表会・社内教育・情報共有の推進
○	新制度の有効活用と新規テーマの創生

◎:十分に目標を達成 ○:ほぼ目標を達成 △:実現に向け努力中 ×:目標未達

※【SDS】Safety Data Sheet (化学物質安全性データシート)

基盤となるCSR活動

評価

CSR経営の考え方

日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を
不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」
を実現することによりすべてのステークホルダーの信頼
に応えるCSR経営を行ってまいります。

アクションプラン

・企業ビジョン、CSRを啓発する

2013年度の目標

- ・教育研修の継続実施
- ・CSR関連プロジェクトの組織横断的運営
- ・会議・社内誌などによる啓発活動の継続

KAYAKU spirit とCSR経営

KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の
結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グ
ループの企業ビジョンです。KAYAKU spiritは50年
以上前に制定された社是をもとにしており、私たちの中
にずっと息づいているCSR経営の原点となる考え方です。当
社グループではKAYAKU spiritを実現させるための
企業活動を行うことによって、すべてのステークホルダー
の信頼に応えるCSR経営を実現してまいります。

CSR経営実現のための取り組み

全事業をCSRの観点から判断できる体制とするため、
社長を委員長とし、各事業を統括するすべての役付執行役
員をメンバーとするCSR経営委員会を設定しています。ま
た、事業戦略とCSR活動が一体となるように、中期事業計
画と連動した中期CSRアクションプラン(p6, 7)を策定
し、外部にも公表するとともに、そのPDCAを実施してい
ます。

日本化薬グループの全従業員がCSR経営の意義を理
解し、一体となって目標に向かえるように、経営幹部や各
事業場の責任者からのCSR意識の浸透に加え、年間数十
回のCSR研修・コンプライアンス研修を行っています。ま
た、組織横断的な社内プロジェクトを結成し、全社での
CSR活動を推進しています。この他、優秀なグループ会社
の取り組みについては全グループ会社で共有するなどの
試みを進めています。

あるべき姿
||
企業ビジョン

KAYAKU spirit
最良の製品を
不断の進歩と良心の結合により
社会に提供し続けること

企業活動

事業計画・事業活動
アクションプラン
社会・地域貢献活動
環境負荷軽減活動

CSR経営

KAYAKU spiritを実現させるための
企業活動

行動規範

心かけ、行動方針

日本化薬グループ行動憲章・行動基準 グループ行動指針

- 行動指針**
- ① KAYAKU spiritを常に意識しよう
 - ② PDCAをしっかりとスピーディに回そう
 - ③ 全員D席で行こう

※企業ビジョンであるKAYAKU spiritを実現させるための企業活動としてCSR経営を位置付けています。

CSR研修回数

13回

VOICE KSM社での KAYAKU spirit 浸透活動 David Gutierrez, Isabel Cedillo Ayala

KSM^{※1}社は、2007年設立当時から日本とメキシコ、それぞれの文化を尊重し、それぞれの良い点を融合させ、KSM社独自の文化を創り出すことを検討してきました。

2011年には日本化薬グループの企業ビジョン KAYAKU spiritを従業員に正しく伝えられるよう、スペイン語版 KAYAKU spiritを作成し、教育を始めました。従業員に説明するだけでなく、全員参加型とし、月度

のトピックに関連するビデオの活用や対話形式のゲームによって理解を促しました。

従業員が KAYAKU spiritの基本を理解した後、従業員の家族や地域社会にも広げられるべく、浸透活動の一環として、家族参加イベントの開催や、車いす、クリスマスのおもちゃ、古着の寄付などの支援活動を行いました。



KAYAKU spirit 研修

※1【KSM】 Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. (メキシコ国モンテレー市にある自動車用安全部品の生産販売会社)

コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンス体制を整備し、コンプライアンスを企業活動における最優先事項と位置付けています。

アクションプラン

- ・コンプライアンスを啓発する

2013年度の目標

- ・全従業員を対象にしたコンプライアンス研修の実施
- ・コンプライアンス・アンケートの実施

コーポレート・ガバナンス

●コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

日本化薬グループは、社会から信頼される企業であるために、株主・投資家の皆さまへのタイムリーかつ公正な情報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重要な課題であると認識し、自律的なガバナンスを整備しています。

●コーポレート・ガバナンス体制

日本化薬グループは、取締役会の合議制による意思決定と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

2005年8月から、経営の「意思決定・監督機能」と「業務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強化して適切な意思決定と迅速な業務執行を行っています。また、経営責任および執行責任の明確化のため、取締役と執行役員の任期を1年としています。

さらに、2013年6月から社外取締役を導入しました。これにより、経営の透明性を高めるとともに、コーポレート・ガバナンス体制のさらなる強化を図っています。

当社は監査役会設置会社で、社外監査役3名を含む5名の体制です。監査役が取締役会等の各種社内重要会議に出席する他、内部監査部門との情報交換等を通じ、独立した立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

コンプライアンスの浸透と醸成

日本化薬グループは、コンプライアンスを企業活動における最優先課題と位置付け、2011年に「日本化薬グループ行動憲章・行動基準」を制定し、各事業場・国内グループ会社に倫理責任者と倫理担当者を置き、倫理委員会と連携を取りながら運用を図りました。海外のグループ会社はそれぞれの国の実情に合わせ同様に進めていくようリーダーと打ち合わせました。

また、62の部署や事業場でそれぞれ独自に「コンプライアンス・アクションプラン」を策定するように依頼し、現場での具体的な活動を実施しました。引き続き日本化薬グループ一丸となり取り組みます。



コンプライアンス推進担当による研修

TOPIC 日本化薬グループのBCPへの取り組み

BCP^{※1}訓練には社長をはじめすべての役員が参加し、2012年度は本社と機能化学品事業本部、そして2013年度は医薬事業本部において外部コンサルタントの指導のもとで行いました。BCP訓練の想定は関東北部にM8の地震が発生し、高崎工場が被災した場合とし、医薬事業の事業復旧を中心としたブラインドシミュレーション形式で実施しました。

その結果、「中央災害対策本部長(社長)」の指示で設置された「医薬事業本部災害対策本部」が生産管理、出荷・顧客対応を中心に復旧計画案を作成し、「中央災害対策本部」に復旧計画案を報告して予定通り終了しました。BCP訓練はBCPマニュアルを「絵に描いた餅」にしないためにも今後もすべての事業部で実施していきます。

※1 【BCP】Business Continuity Plan, 事業継続計画



日本化薬グループ会社のCSRコミットメント

日本化薬グループは国内20社、海外20社の計40社で、世界9カ国で事業展開しています。連結グループ会社のCSRコミットメントを掲載します。すべての連結グループ会社のCSRコミットメントは、ウェブサイトにて公開していますので合わせてご覧ください。

ドイツ 機能化学品事業

ドイツでは労使間の問題を専門に扱う労働裁判所があり、企業に対するCSR経営に則った事業活動・従業員への配慮を行うことが求められており、個人レベルでの意識が非常に高い国であります。当社では **KAYAKU spirit** の冊子を使用しCSR経営の理解をさらに深め、従業員の安全・健康な職場を作るために、通勤途上災害・通勤途上事故のゼロと有給休暇の完全取得を目指します。今後も地域社会に配慮したCSR活動に積極的に取り組みたいと思います。



ユーロニッポンカヤク GmbH
代表取締役社長
北山靖之

中国 機能化学品事業

上海化耀国際貿易有限公司 (SKT) は中国およびASEAN 地域向けに染料、産業用インクジェットプリンタ用色素、感熱用顕色剤などを販売しています。これらの地域における環境、省エネルギー問題は今後ますます重要になっていきます。特に繊維への染色を行うお客様では、環境への配慮や省エネルギー化が非常に重要な課題となっています。そのような中、私たちは染色工程を従来の約半分の時間で終了可能な染料を積極展開することで、お客様の効率生産、省エネルギー化、排水量の削減等に貢献しています。



上海化耀国際貿易有限公司
総経理
井上晋司

チェコ セーフティシステムズ事業

Indet Safety Systems a.s. (以下ISS) は、セーフティシステムズ事業本部の海外関連会社として創業15周年を迎えました。元々、チェコ共和国は共産圏に属していたため、CSRという言葉自体に馴染みが薄く、CSRの概念を理解させることから開始しました。近年ようやくCSRという言葉が定着しつつあり、それに伴いCSR活動が活発になり、CSR経営の実現に向けて日々取り組んでいます。他の地域同様に、ISSが立地するフセチン市も高齢化社会の進展に伴う医療の課題や大都市への人の流出による過疎化など、様々な社会問題に直面しています。医療に関しては、地元病院との関係を強化しサポートを継続します。また自動車産業のグローバル化により、高品質のISS製自動車安全部品が世界各地で使用されることにより、交通事故から人命を守ることをステークホルダーの皆さまへの約束と位置づけています。



インデットセーフティシステムズ a.s.
代表取締役社長
徳竹晋

ドイツ

チェコ

台湾 医薬事業・機能化学品事業

現在、台湾日化は **KAYAKU spirit** を実現するために、①お客様のニーズを正確に把握し、社内の関連部門に伝えるよう日常業務の質の向上に努めること。②日本交流協会、台北市工商会等の部会活動、委員会活動、各種行事に積極的に参加・協力することにより現地の文化・経済交流に寄与するよう活動すること。③ **KAYAKU spirit** を常に意識するために社内の中心に企業ビジョンボードを掲げ、各自携帯用カードを常に持ち歩き日常活動を行っています。今後も地域社会に貢献するよう積極的にCSR活動に取り組んでまいります。



台湾日化股份有限公司
総経理
花田二郎

中国 セーフティシステムズ事業

化薬(湖州)安全器材有限公司(KSH)では2013年に、「企業ビジョン」5項目と「私達の目標」3項目を策定しました。2014年度は、重点課題として、「品質確保および生産性向上のための教育の充実」「適切な法対応によるコンプライアンスの徹底」を掲げ、日々の活動に落とし込みます。具体的には、倫理的な行動と遵法では「コンプライアンス委員会設立」、セキュリティ確保では「監視カメラシステムの整備」、顧客満足の追求では「TS16949認証取得」、安全・健康・公正な職場では「QC活動」、人材開発では「英語教育」を課題として取り組みます。



化薬(湖州)安全器材有限公司
総経理
牧内孝典

アメリカ 機能化学品事業

マイクロケムは、当社従業員の福祉、地域社会や環境のために、また、ステークホルダーの皆さまの経済的価値のために果たすべき企業責任を約束します。私たちは、お客様が当社の革新的な製品や技術を通じて成功するよう献身して支援していきます。また、私たちは、私たちのビジネスの成功が当社の高い倫理原則と社会の期待に沿ったものであることを確かにしています。



マイクロケム Corp.
President & CEO
Jeremiah J. Cole Jr.

中国

日本

台湾

アメリカ

日本 機能化学品事業

ポラテクノは「光を制御する」をキーワードに事業を展開しています。光を制御するポラテクノの各種製品を提供することにより、お客様やそれらの製品が使われた商品を使用される一般消費者の皆さまの安全、省エネルギーや快適な生活に貢献し、ひいては環境にやさしい世界が実現できるよう努力いたします。ポラテクノの製品が生活になくてはならぬものであり続けることがCSRの最大の課題と考えています。



株式会社ポラテクノ
代表取締役社長
安藤誠

日本 機能化学品事業

日本化薬福山のCSR活動は、地域社会との共存・共栄を目指した活動が主体です。創立98年の福山に根差した工場であり、地域の活性化のために労働安全衛生、消防、人権啓発、環境保全、祭りや行事の支援について活動をしていて、今後も続けてまいります。また、当社の製品のひとつである産業用インクジェットプリンタ用色素は、染色工業において廃液を削減するなど環境負荷の少ない製品であり、環境保全にも役立つことを期待しています。



株式会社日本化薬福山
代表取締役社長
氏田邦夫

経済的責任を果たすCSR活動

豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在の製品および未来の技術や製品

日本化薬グループは“世界的すきま発想。”でニッチでも突出した技術で付加価値の高い製品を開発し、世界になくなくてはならない企業を目指しています。

デジタルカメラ
微細カラーフィルタ用カラーレジスト
ブラックマトリックス用樹脂

有機半導体
フレキシブルディスプレイ
ウェアラブルパソコン

印刷材料
感熱顕色剤
染料

偏光サングラス
偏光素膜

スマートフォン、タブレット
カラーレジスト用樹脂、カラーフィルタ用色素
半導体封止材用エポキシ樹脂
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂
液晶シール材、コート用樹脂

プロジェクター
偏光フィルム

色素増感太陽電池
カラフルでシースルーな太陽電池

菓子
品質保持剤

洋服
染料

食品
健康食品原料

衛生用品
ウエットクロス

カーテンエアバッグ
インフレーター

バイオマス化学品
木から生まれたプラスチック

ダンボール
染料

除菌スプレー
エタノール製剤

農業
殺虫剤、除草剤、
土壌くん蒸剤、
生物農薬

熱伝導性耐熱絶縁材料
電動航空機の電動モーターコイル

排水処理技術
水をきれいにし
自然にかえす技術

介護事業
福祉用品、
デイサービス

カレンダー
蛍光染料

おむつ
高吸水性樹脂の原料
であるアクリル酸製造の
ための触媒

車載用シート
染料
シートベルト
染料

シートベルト
マイクロガスジェネレータ

ポップアップエンジンフード
マイクロガスジェネレータ

エアバッグ
インフレーター
サイドエアバッグ
インフレーター

車載用ディスプレイ
液晶ディスプレイ用フィルム
液晶シール材

エンジン
エンジンモーター制御
半導体用エポキシ樹脂
プリント基板用樹脂

アクリル塗料、
ライトカバー
塗料・部品の原料である
アクリル酸製造のための
触媒、樹脂接着剤

花火
打上げ黒色火薬
火工品

医療
医薬品
医療機器
原薬
診断薬

エネルギー変換材料
健康診断センサー
熱電変換素子

抗がん薬内包高分子ミセル

巨大水槽
透明樹脂の原料である
メタクリル酸製造の
ための触媒

トイレトペーパー
染料

ディスプレイ
半導体封止材用エポキシ樹脂
液晶シール材
液晶パネルスペーサー用樹脂
カラーレジスト用樹脂
コート用樹脂
プリント基板用樹脂
機能性フィルム
カラーフィルタ用色素
赤外線吸収剤

ふせん
紙用染料
粘着剤の原料であるアクリル
酸製造のための触媒

プリント用
普通紙
蛍光染料

光ディスク
接着剤
コート材

プリンター
インクジェットプリンタ用色素

日本化薬グループの事業

日本化薬グループの主となる4つの事業をクローズアップし、社会に貢献する技術を活かした開発製品などをご紹介します。より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/company/business/>



機能化学品事業

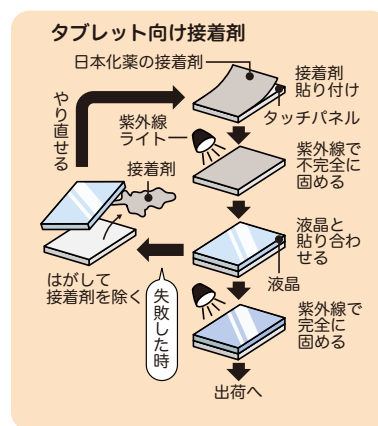
TOPIC タッチパネル・液晶の貼り合せ技術「KSPシリーズ」の開発

日本化薬はタブレット(多機能携帯端末)のタッチパネルと液晶パネルを貼り合わせる工程で、製品の歩留まり^{※1}を向上させた無溶媒系のアクリル系接着剤「KSPシリーズ」を開発しました。

「KSPシリーズ」は紫外線を当てると固まるアクリル系接着剤です。タッチパネル側に「KSPシリーズ」を薄く塗布し紫外線を短時間当てて仮硬化後貼り合わせることで、気泡やホコリ等

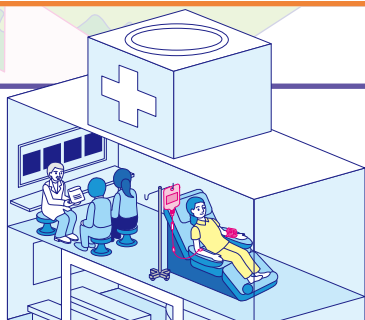
の異物混入が発生した場合にタッチパネルと液晶パネルを再生できるように剥がして貼り直すことができ、上手く貼れたものだけに紫外線を当て完全に固めます。

これにより同工程での歩留りを従来比で約3割向上^{※2}させ、不良品廃棄部材を大幅に減らし省資源化に貢献できます。無溶媒系接着剤は環境と人にやさしい製品です。



※1【歩留り】原料(素材)の投入量から期待される生産量に対して、実際に得られた製品生産数(量)比率。

※2【従来比で約3割向上】社内比較。



医薬事業

TOPIC Speciality, Biosimilar & Generic, plus IVRファーマへ

日本化薬は、がん治療や関節リウマチ治療で重要な役割を果たしている医薬品のバイオシミラーを最優先課題として早期の事業化を実現することにより、患者様やそのご家族、医療関係者の皆さまに一層貢献することを目指していきます。

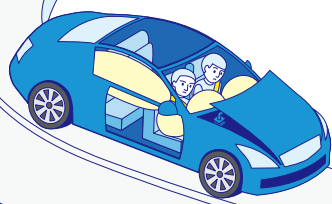
バイオシミラーを幅広く提供することで、「いつでも、どこでも、誰でも」より良い医療、質の高い医療を

等しく受けられる社会を実現したいと考えています。

また、2010年に第3の柱として進出を果たしたIVR^{※3}(Interventional Radiology)分野については、12年度、3製材をラインアップに加えました。がん領域を中心に患者様の身体的負担が少ないIVR治療(低侵襲治療)の提供によって社会に貢献していきます。



※3【IVR】「血管内治療」、「血管内手術」とも言われ、エックス線透視や超音波像、CTを見ながら体内に細い管(カテーテルや針)を入れて病気を治す治療法です。



セイフティシステムズ事業

TOPIC さらなる安全をグローバルに

自動車の安全技術は年々飛躍的な進歩を遂げており、近年ではエコ性能に加えて安全性能は自動車を購入する際の選定を動機付ける大きなポイントとなっています。

自動車の安全技術は、事故を回避するための予防安全技術と、事故が発生した際の被害を軽減する衝突安全技術に分けられます。

自動車事故の際、乗員の安全を守る衝突安全技術にはいくつかの要素があ

りますが、自動車エアバッグ、シートベルトは其中でも重要な位置を占めています。

このような環境の中、日本化薬は従来から培ってきた火薬の技術を応用し、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用および歩行者頭部保護を目的としたポップアップフード用マイクロガスジェネレータをグローバルに開発・製造・販売し、世界中の自動車の乗員の安全に貢献しています。



アグロ事業

TOPIC ダイアジノン粒剤発売50周年

2014年、アグロ事業部の主力製品のひとつ、ダイアジノン粒剤^{※4}が初めて農薬登録を取得してから50周年を迎えます。ダイアジノン粒剤は、「畑の常備薬」として、さまざまな農作物の害虫防除にご利用いただき、広く根強いご支持をいただいております。

現在、ダイアジノン製品のラインアップは、主力の5%粒剤をはじめ、3%粒剤、10%粒剤、乳剤、水和剤、マイクロカプセル製剤、エマルジョン製剤と、農産物生産現場の農薬使用

場面に合わせて拡充されています。

これは、単なる「歴史」ではなく、長年培った防除技術や製剤技術が温故知新の精神として受け継がれ、近年、若返ったアグロ研究所の発想力との融合により、アグロ事業部の新製品創出の礎ともなっています。

農産物を病虫害・雑草から守り、生産者の労力を軽減する農薬、食物生産を助けるこれらの資材にも日本化薬グループの技術が活かされています。



※4[ダイアジノン粒剤]カヤクダイアジノン粒剤3は、農林水産省登録 第6193号 昭和39年5月4日農薬登録を取得。現在は、ダイアジノン粒剤3(農林水産省登録 第7288号)と商品名を改めています。

社会的責任を果たすCSR活動

評価

日本化薬グループでは、お客様に最良の製品を提供するために、製品やサービスの安全性・信頼性に配慮しています。

また、ステークホルダーのひとつである地域の皆さまとコミュニケーション活動を活発に行い、地域に根付いた会社でありたいと願っています。

お客様への取り組み

アクションプラン

- ・信頼性を確保する

2013年度目標

- ・「日本化薬と医療機関等との関係の透明性に関する指針」をウェブサイトで公開
- ・農薬安全使用のために現地指導を継続実施

お客様への取り組み

TOPIC 染色講習会の開催

日本化薬は2014年1月、東京事業区にて染色業界内の関係者を対象にした「第3回染色講習会」を開催しました。染料の染色方法、色彩の基礎知識をはじめ、実践的な問題解決の提案、各種法規制などの最新動向や影響について、色材事業部営業部市場開発担当による講習を行いました。目的は、参

加者の染色知識の習得はもとより、業界内の横のネットワークを広げ、問題点の共有を図り、課題解決に向けた情報交換を行うことです。近年では海外の各地域で日本の新しい技術に対する関心は非常に高まっており、グローバルな事業展開についても活発なディスカッションを実施することができました。



主な取り組み

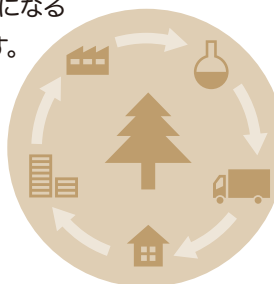
- ・くすりの相談窓口（医薬品情報センター）
- ・農薬の使用方法的指導
- ・各種展示会

お取引先への取り組み

TOPIC CSR調達への取り組み

日本化薬は現在、CSR調達規準の作成準備を進めています。CSR調達規準とは当社の考えるCSR経営をサプライヤーの皆さまとともに取り組むため、当社の考え方をサプライヤーの皆さまに具体的にお伝えするものです。CSR調達への取り組みは次の考え方に基きます。当社はCSR経営を標榜し数年が経過しています。次のステップとして、価値観を共有するサプライヤーの皆さまとともにこれを実践します。これにより、なお一層社会に対する企業の責任を果たすことができると考えています。CSR調達規準は安全・品質・環境、人権と労働、コンプライアンス、

情報開示、購買倫理などの企業が社会に負う責任全般を網羅する内容になります。CSR調達規準の考え方は現在お取引をさせていただいているサプライヤーだけでなく、潜在的なサプライヤーに対しても共有されることを希望します。当社は多様な産業分野に関わっているため、対象となるサプライヤー数は企業規模に照らし相対的に多数になると考えています。



お客様

お取引先

日本化薬グループ
KAYAKU spirit

CSR経営

株主

主な取り組み

- ・CSR調達
- ・日本化薬と医療機関等との関係の透明性に関する指針

詳細はウェブサイトをご覧ください。

www.nipponkayaku.co.jp/csr/social/persons.html



評価

お取引先・投資家への取り組み

2013年度の目標

- ・原材料および間接材のグリーン調達実績の集計を実施
- ・適切な決算説明会・取材対応・情報開示により株主の信頼を獲得する

評価

社会への取り組み

アクションプラン

- ・社会の健康に貢献する

2013年度の目標

- ・ピンクリボン活動の継続
- ・「あすなるの家」の継続的な管理運営

社会への取り組み

TOPIC 乳がんinfoナビ リニューアル

乳がんinfoナビは2006年乳がんの患者様のために情報を提供するサイトとして始まり、2013年10月のピンクリボン月間に、全面リニューアルしました。

抗がん薬メーカーの日本化薬らしく、専門性に特化し、乳がんの患者様やそのご家族にとどまらず、すべての女性に

向けて専門の医師・薬剤師から確かな情報を提供するサイトとしました。

乳がんinfoナビは、すべての女性が“キラキラと”輝いて生きることを応援する乳がん情報サイトです。



乳がんinfoナビ
<http://www.nyugan-infonavi.jp>

TOPIC 場内駅伝大会の開催

厚狭工場では、スポーツの普及および振興をはかり、スポーツを通して健全な心身の養成と懇親を深めることを目的として、毎年3月に「場内駅伝大会」を開催しています。

1965年の初開催から数え、2013年度は第50回記念大会となりました※1。全59チーム(5名/1チーム)がエントリーし、全員が無事故で完走しました。



※1 地域住民との懇親を深め、交流を促進し社会の活性化に寄与することを目的として、地域へ開催案内をしました。

TOPIC フセチン病院へのICU用ベッドの寄付と小学生の絵画コンテストを開催

Indet Safety Systems a.s.(ISS社)はチェコ共和国のフセチン市とヤブルンカ村で、自動車安全部品用の点火具とガス発生器を製造販売しています。ISS社では、従来より地域の医療レベル向上が従業員を含む地域に暮らす方々に貢献できると考え、2007年に周辺では最も大きなフセチン病院にICU(集中治療室)用のベッドを1台提供しています。2013年度はさらにICU用のベッドを4台提供しました。フセチン病院にあるICUのベッド5台すべてがISS社からの寄付によるものとなりました。今回の寄付に伴い、地域との協働で何かできないかを考えた結果、ヤブルンカ村の小学校にご協力いただき、「快気祝い」をテーマに花の絵画コンテストを実施しました。入院されている方々に元気を与える花の絵を子どもたちに描いてもらい、表彰を行いました。表彰された絵はICUの壁に飾っており、病室の雰囲気明るくしてくれています。



主な取り組み

- ・ピンクリボン活動
- ・難病とたたかう子どもと家族の滞在施設「あすなるの家」
- ・工場祭
- ・懇談会
- ・地域清掃
- ・公開講座
- ・各種寄付

主な取り組み

- ・各種研修(コンプライアンス、CSR、メンタルヘルス、人事、各事業部)
- ・各種アンケート(意識調査、コンプライアンス)
- ・社内報(グループ報、単体報)
- ・方針TV放映
- ・社内通報制度(社内、社外窓口)

社会

社員

主な取り組み

- ・株主総会
- ・株主通信
- ・投資家向け説明会
- ・投資家向け個別ミーティング
- ・アニュアルレポート

詳細は18・19ページ
をご覧ください。

従業員への取り組み

企業の主体は“人”。日本化薬グループは、従業員が安心して働ける環境の中で一人ひとりが持てる能力を発揮し、仕事を通じて社会に貢献することで働きがいを感じることが大切だと考えています。

アクションプラン

・安全な職場環境を実現する

2013年度の目標

- ・ダイバーシティの拡大
- ・メンタルヘルス研修実施

グループ管理本部長メッセージ

日本化薬グループが **KAYAKU spirit** を永続的に実現していくためには、社会において存在価値が常に認められる状態に保つことが大切だと考えています。その基本は「安全、安心、コンプライアンス」を維持・向上しつつ、社会に役立つ製品やサービスを提供し続けることですべてのステークホルダーの皆さまから信頼

される企業グループとなることです。現在取り組んでいます **Challenge 100A!** の達成もこの信頼なくして実現できるものではありません。

そして日本化薬グループ各社が、それぞれ社内に設けているさまざまな規程や制度・施策は正にこの信頼を確保するための手段であると言っても過言ではありません。これからもよ

り高い信頼性を目指してグループ経営体制の整備に取り組んでいきます。



グループ管理本部長
平尾 宰

ダイバーシティの推進

日本化薬グループは、ダイバーシティ(=多様な人材)を尊重し、社員それぞれの能力を最大限に発揮し、やりがいや充実感を感じながら生き生きと働くことにより、競争力を高めていく経営を考えています。

その達成においては、職場における女性の能力発揮がひとつの指標となります。そのためには、「男女共同参画」と「ワーク・ライフ・バランス」の推進が不可欠であり、これらの結果として、女性のみならず、多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮できる「ダイバーシティ」の推進が達成できると考えます。すなわちこのサイクルを回すことによって、競争力を高めていく「いい会社・強い会社」を実現していきます。

女性の活躍

女性の管理職登用は、あくまで「ダイバーシティ」の推進に向けた取り組みの結果であると考えています。管理職に占める女性の割合は2014年3月末時点では、4.2%(前年3.2%)にまで向上してきました。今後も継続的・発展的に女性の活躍を推進していきます。

障がい者雇用

日本化薬では多様性重視の観点から障がい者を有する方の雇用にも取り組んでおり、2014年3月末時点で、障がい者を有する方48名を雇用(障がい者雇用率2.0%)しています。さらにスピードを上げた対応が社会的にも求められており、今後は知的障がい者の継続的採用にも取り組むなど、より一層取り組みを強化していきます。

女性管理職比率
(2014年3月末時点)



男女共同参画

- 仕事と育児・介護の両立支援

ダイバーシティ

- 人権・女性の活躍
- 障がい者採用・高齢者

KAYAKU spirit

男女共同参画のための制度の充実

男女共同参画のために、社内制度の拡充並びに制度活用の促進に取り組んでいます。次世代育成支援対策では、従来より育児休職制度をはじめ、法を上回る内容の諸制度を導入し、取り組んできました。育児休職の取得実績は、女性社員ではすでに取得率(=育児休職を取得した女性社員の人数/出産した女性社員の人数×100)は100%以上ですが、男性の育児休職者も増加し、2013年度の取得者は3名でした。今後は、さらに男性の育児参加を後押しする職場風土作りに取り組みます。



ワーク・ライフ・バランス

●社員の意識改革
・風土

メンタルヘルス研修
受講率

100%

「いい会社・強い会社」の実現

「特別有給休暇制度」の充実

2年間、取得をしなければ有効期限が切れる年次有給休暇を積み立て、特定の理由があれば使えるようにする「特別有給休暇制度」など、従業員のワーク・ライフ・バランスのための支援をしています。取得にあたり煩雑な手続きが必要なものではなく、「私傷病であれば医師の診断書や、用途によって、その事実を証明できるものがあれば申請できる」など、利用しやすい制度としています。また、一度取得した場合でも、再び限度日数まで積み立てることができるなど、従業員の利用しやすさを第一に考えています。

●特別有給休暇制度

用途	充当日数
私傷病のための連続4日以上療養 またはリハビリテーション、アフターケア のための通院(医師の診断書の期間内)	最大 60日
2等親以内の親族、おじ、お婆の介護	45日
研修やボランティア活動に参加	30日
日本化薬カフェテリアプランの アクティブポイント使用に伴う休暇	5日
未就学児童の検診、予防接種のため 休暇を必要とする場合	5日
不妊治療のために必要とする場合	60日
育児休職に充当する場合	10日
子ども看護休暇への充当	10日

ワーク・ライフ・バランス

労働時間管理

日本化薬グループは、コンプライアンスやメンタルヘルスの観点から、労働時間の適正な把握、状況に応じた対応を行い、労使協力して労働時間管理の徹底に取り組んでいます。さらに、ワーク・ライフ・バランスの充実という観点から、従業員の所定外労働の削減や、有給休暇の取得率向上を目指しています(有給休暇の取得率は2012年度比4.3%向上)。

そのためには、業務生産性の向上と付加価値創造に向けた社員の時間管理に対する意識改革(職場風土)が重要です。

メンタルヘルスの取り組み

業務生産性の向上と付加価値創造の達成を両立させるためには、従業員が生き生きと働ける就業環境と心身の健康が不可欠です。

日本化薬では、2005年に「メンタルヘルス導入宣言」を社長名で発信し、管

理者への指導を徹底してきました。メンタルヘルスケアには、従業員全員が、継続的に正しい知識・認識を持ち、メンタル不調の早期発見・予防に努めることが大切です。そこで「メンタル不調を予防することを第一に考える」取り組みを重点に行っています。メンタルヘルスを導入後、外部の契約EAPの講師を招き、2005年度、2006～2008年度、2009～2011年度の3回の期間を設け、各期間内に全従業員が必ず1回はメンタルヘルス研修を受講するプログラムを実施しました。2012年度からは新たな3カ年計画とし、社員全員が受講実施中です。

一方、メンタル不調によって、休養を余儀なくされた方の職場復帰についても、「復職プログラム」を策定し、職場の上司(会社)、産業医、EAPが三位一体となって、再発予防を念頭においた、スムーズな職場復帰を支援する体制を整えています。

環境責任を果たすCSR活動

評価



環境安全衛生品質マネジメント

日本化薬グループは、「環境・安全・品質」をあらゆる経営課題に優先し、グループ全体で環境負荷低減に取り組んでいます。

より詳細な情報はウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nipponkayaku.co.jp/csr/environment/>



アクションプラン

・安全な職場環境を実現する

2013年度の目標

- ・重大事故災害0件、休業災害0件
- ・無傷害事故0件

生産技術本部長メッセージ

現在、**Challenge 100A!**そしてその先の高い目標達成に向け事業計画をスタートさせています。また、2001年度より実施してきた中期環境目標^{※1}達成に向け鋭意努力のもと、順調に計画は進んでいます。しかし、COP19における温室効果ガス排出量の基準年の見直しは日本化薬にとって厳しい数値目標となりました。現在、全社で進めているエネルギー低消費型企業への取り組みのより一層の加速が必要となります。それとともに、昨今の化学企業の工

場事故の要因分析や環境・安全・品質そして生産技術等の現場力の向上が日本化薬の持続的成長に必須となります。今後も知識、意識を含めた現場力の向上を進めていきます。



生産技術本部長
福永誠規

※1 中期環境目標：P22を参照。2001-2010年（終了）、2011-2020年（現在進行中）と10年ごとに目標を設定。

環境・安全・品質に対する取り組み

日本化薬グループは、環境安全衛生の強化として、事故災害の未然防止対応、環境目標の達成、自然災害の事前対応、廃水処理技術の開発と向上推進、省エネルギー活動、健康づくりなどに取り組みました。特に、ここ数年化学企業の大きな事故災害が続き、日本化学工業協会で作成した「保安事故防止ガイドライン」を活用し潜在リスクの洗い出しによる事故災害の未然防止に取り組まれました。

2014年度は、今までの課題であるグループ環境安全衛生の取り組み推進、安全教育体系の整備、全社統一の安全教育の実施に取り組まれました。また、非定常作業を含む潜在リスクの徹底的洗い出しによる事故災害の未然防止に継続的に取り組み、日本化薬グループの環境安全衛生のさらなる向上を進めます。

品質では、品質管理技術力の向上や顧客苦情および品質工程異常の低減に取り組まれました。

休業災害

2件

品質に関する教育としては、統計解析手法の実践的な研修“統計データ解析～おもしろ体得塾～”や外部講習への派遣、「内部監査教育」等の工場出張講習を実施しています。この他に「品質改善事例集」を

発行し、品質改善手法の普及を進めました。

顧客苦情および品質工程異常については再発防止策の強化のためになぜなぜ分析の実施を進めてきました。2014年度は“なぜなぜ分析推進チーム”を組織し活動を強化します。また、事業場で抱えている課題を把握して、改善を進めるための活動も進めます。



5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)教育研修



品質に関する研修

日本化薬グループの環境安全衛生

「日本化薬グループの環境安全衛生方針の策定の検討」を掲げ、初めて全グループ会社のトップを集めて環境安全衛生会議を開きました。会議では「安全をすべてに優先させる」をグループ共通で進め、国内の環境安全関連の法令遵守、環境・安全の事故災害未然防止だけでなく、海外現地の法令対応、グループ全体の環境・安全事故の未然防止を図ること、また、KAYAKU spirit の実現に向け、「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループ会社全員で活動をともし、次の方針を確認しました。

中国におけるCOD 負荷量削減の取り組み

無錫先進化薬化工有限公司は繊維用、紙用の合成染料を製造することを目的に、1996年、中国の無錫市に設立されました。

中国では昨年の春よりCOD 負荷の非常に高い染料種属の生産が急増しています。このため、廃水処理設備増設等の対策の他に、製造方法の根本的な見直しを行い、CODの発生量の削減にも取り組んでいます。まず、排水中のCOD原因物質の特定を行い、この物質の発生メカニズムを究明した上で、合成反応中でこの原因物質の発生をできる限り少なくし、なおかつ品質上でも問題がない合成条件の検討を行っています。

地道な検討ではありますが、着実に効果は現れ、現段階の対策により、年間で45トンのCOD削減の見込みを得ています。また、この削減により、廃水処理に必要な薬剤や、人件費の削減が可能になり、年間で220万円のコスト削減も達成の見通しです。

環境負荷が小さく、高効率な生産体制を持つ会社を目指し、今後もこの検討を継続します。



無錫先進化薬化工有限公司の廃水処理設備

日本化薬グループ 2014年度環境安全衛生方針

「環境と安全と品質に関する私たちの宣言」に沿って日本化薬グループ全員で取り組む中で、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に活動を行う。

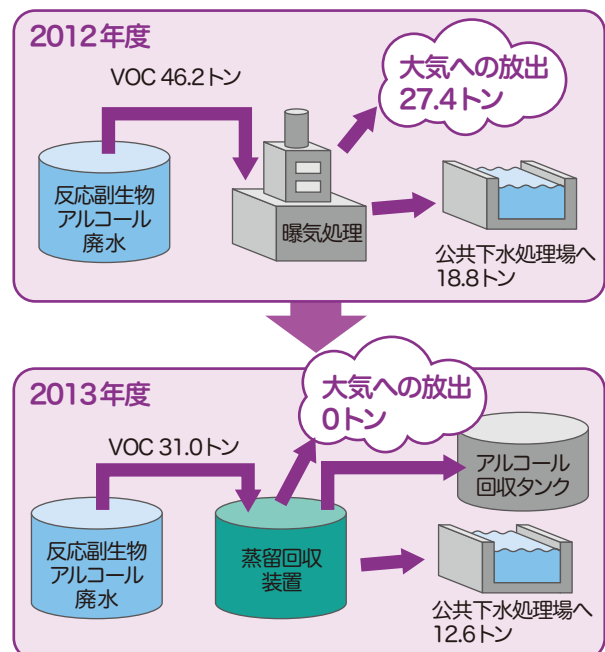
1. 「事故災害ゼロ」へ向けた取り組みの強化
～リスクアセスメント等安全諸活動の活性化
および設備の本質安全化推進による
2. 海外グループ会社を含む中期環境目標設定の検討
～海外グループ会社を含めた環境関連データの集約
および解析による

鹿島工場における VOC 削減の取り組み

鹿島工場では農薬製造過程で大量に発生するアルコールを大気放出させていましたが、環境にやさしい工場を目指すため、「揮発性有機化合物(VOC)の大気放出量の削減」をテーマに、問題であった製造過程で生成するアルコールの回収方法の検討に取り組みました。具体的には、既存の設備をアルコールの蒸留回収装置として転用し、ガス状となったアルコールを液状のアルコールとしてタンクに回収することで、大気放出させない方法を確立しました。

その結果、2012年度では27.4トンものアルコールを大気放出させていましたが、2013年度では大気放出量ゼロを達成しました。

私たちは、これからも環境負荷の低減に向けて、環境改善に積極的に取り組んでまいります。



環境責任を果たすCSR活動

評価

エネルギー・マテリアル・バランス

2020年度までの中期環境目標達成に向けた取り組みを実施しています。報告対象組織は日本化薬のみです。

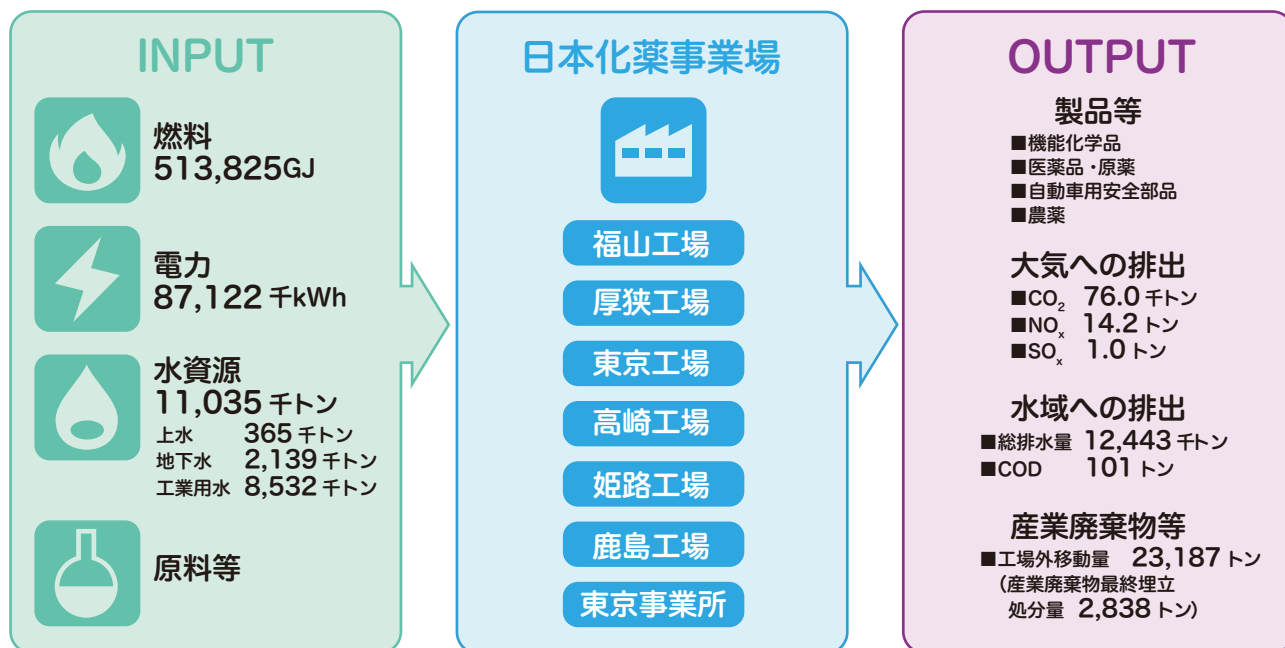
アクションプラン

- ・化学物質排出量の削減
- ・廃棄物の発生量の抑制
- ・地球温暖化を防止

2013年度の目標

- ・中期環境目標の実現

事業活動と環境負荷の全体像



中期環境目標 (2011~2020年度)

分野	項目	2020年度 目標値	2013年度実績	内容
化学物質 排出量削減	VOC※1 排出量	45 トン以下	54.5 トン	前年度と比較して 33.0%減となりました。
	COD※2 排出量	180 トン以下	101.4 トン	前年度と比較して 18.2%減となりました。
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量※3 (生産部門+業務部門)	15%以上削減	76.0 千トン	前年度と比較して 4.2%増となっていますが、CO ₂ 排出量の換算係数の見直しによるものです。(総エネルギーは約2%減っています。) 1990年度比では 21.0% 減となっています。
廃棄物削減	廃棄物発生量	30,000トン以下	23,187 トン	前年度と比較して 13.5%増となりましたが、福山工場でのスポット的な廃液汚泥処理や同じくスポット的な高崎工場での建設廃材による増加です。
	リサイクル率	70%以上	71.7%	前年度と比較して 9.9%増となりました。リサイクル率の高い産廃業者への排出が増えたためです。
	ゼロエミッション率※4	3%以下	12.2%	前年度と比較して 4.3%増となりましたが、福山工場でのスポット的な廃液汚泥処理や同じくスポット的な高崎工場での廃材による増加です。

※1【VOC】 Volatile Organic Compounds.揮発性有機化学物質。ただし、集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理しています。

※2【COD】 Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) 水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。

※3【エネルギー起源CO₂ 排出量】 1990年度(96.2 千トン)を基準としています。

※4【ゼロエミッション率】 日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。

グループ概要 (2014年3月末現在)

ヨーロッパ

Dejima Tech B.V.
Dejima Optical Films B.V.
Euro Nippon Kayaku GmbH
INDET SAFETY SYSTEMS a.s.

中国

無錫宝来光学科技有限公司
Polatechno(Hong Kong) Co.,Ltd.
無錫先進化学化工有限公司
化学化工(無錫)有限公司
招遠先進化学化工有限公司
上海化耀國際貿易有限公司
化学(湖州)安全器材有限公司
化学(上海)管理有限公司

韓国

Nippon Kayaku Korea Co.,Ltd.

台湾

台湾日化股份有限公司

マレーシア

Kayaku Safety Systems Malaysia Sdn.Bhd.

アメリカ

MicroChem Corp.
Moxtek, Inc.
NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.
THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC

メキシコ

Kayaku Safety Systems de Mexico,
S.A. de C.V.

日本

株式会社ボラテクノ
株式会社日本化学福山
株式会社日本化学東京
株式会社ニッカファインテクノ
日本化学フードテクノ株式会社
株式会社TDサポート
日本化学メディカルケア株式会社
株式会社ナック
株式会社西港自動車学校
有限会社YMKサービス
和光都市開発株式会社

株式会社ニコス
株式会社日本人材開発医学研究所
株式会社沖浦ゴルフセンター
厚和産業株式会社
群南産業株式会社
持分法適用会社
化学アクゾ株式会社
カヤク・ジャパン株式会社
三光化学工業株式会社

会社概要

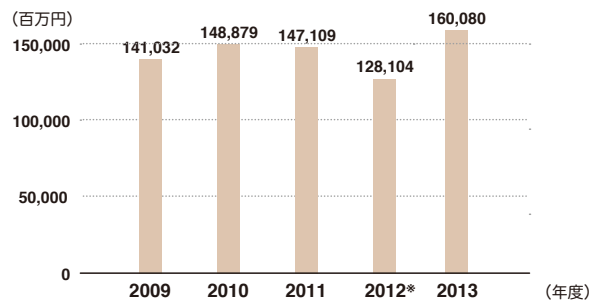
会社名	日本化学株式会社
設立	1916年(大正5年)6月5日
資本金	149億3千2百万円
本社所在地	東京都千代田区富士見1-11-2
電話番号	03-3237-5111(代)
従業員数	単体1,810名 連結4,794名
グループ会社	子会社36社 持分法適用会社3社
決算期	3月31日

主な事業内容

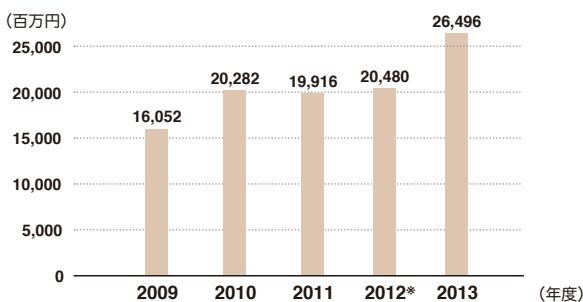
機能化学品	機能性材料、デジタル印刷材料、色材、触媒
医薬	医療用医薬品、医療機器・医療材料、医薬原薬・中間体、診断薬、食品・食品添加物、食品品質保持剤、特定保健用食品、介護事業
セイフティシステムズ	自動車用安全部品
その他	アグロ、不動産事業

財務関連指標

■売上高(連結)

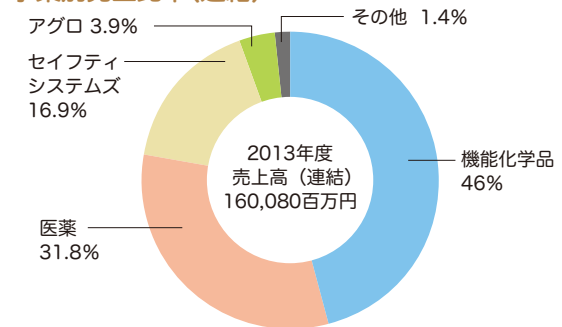


■経常利益(連結)

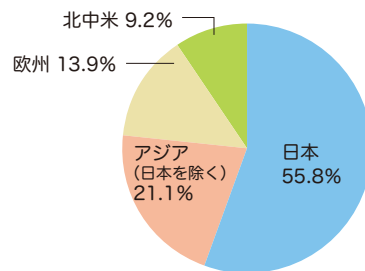


※2012年8月30日開催の株主総会にて決算期を5月31日から3月31日に変更しました。当該変更に伴い、2012年度は日本化学および5月決算であった連結対象会社は2012年6月から2013年3月の10カ月間を、3月決算の連結対象会社は2012年4月から2013年3月の12カ月間を連結対象期間としていました。

■事業別売上比率(連結)



■地域別従業員比率



※従業員数は就業人員であり、臨時従業員を含んでいません。
※対象は日本化学本体と連結子会社26社です。

日本化薬株式会社

〒102-8172

東京都千代田区富士見 1-11-2

経営戦略本部 経営企画部

<http://www.nipponkayaku.co.jp>

2014年6月発行



この印刷物は環境に配慮し、FSC™ 認証林および管理された森林からの製品である「FSC™ 認証紙」、石油系溶剤を100%植物油成分に置き換えたVOCフリーの印刷インキ、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。